

論文

兩浙路の酒麴務

清 木 場 東

M 兩浙路

1 杭州

(1) 酒統計

杭州の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

杭州 M1

舊。在城及餘杭・鹽官・富陽・新城・南新・於潛・昌化・臨
安・湯村十務

歳	360,346貫
熙寧十年祖額	477,321貫126文
買撲	22,026貫192文

旧額貫360,346, 新額(官売+買撲)499,347貫(文は計算せず)で, 両額の差額は139,001貫, 増加率39%になる。官売額477,321貫(文切捨)が新額に占める比率である官売率は96%, 買撲額貫22,026が占める比率である買撲率は4%になる。以上の諸数値を錢額表にまとめる。

(2) 酒務表

寰宇記93・九域志5・方域12により太平興國中～元豐間の杭州諸県の変化を県

変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県8・鎮市1を記すが、それらの酒務からは旧務年代は不明であるので、一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県8，県酒務8であるので，県置務率は $(8 \div 8)$ は100%になる。州県務（在城+県務8）は9務である。全酒務10処に占める州県務の比率である州県務率 $(9 \div 10)$ は90%になる。鎮市務は1務で，鎮市務率 $(1 \div 10)$ は10%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²餘杭・³富陽・⁴新城・⁵南新・⁶於潛・⁷昌化・⁸臨安（州県務8）の計8処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地10処に占める併設地の比率である併設率 $(8 \div 10)$ は，80%になる。旧商税務13処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(8 \div 13)$ は，62%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記の1～8の地・⁹鹽官

（州県務9）の計9処である。

酒務地10処に対する新税務地の比率である新務地率 $(9 \div 10)$ は，90%になる。新商税務15処⁽³⁾に対する新税務地の比率である対新商税務率 $(9 \div 15)$ は，60%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる

M1 杭州 銭 額 表

旧 額	360,346 貫	
新 額	官 売	477,321 貫
	買 撲	22,026 貫
	計	499,347 貫
新旧差額	139,001 貫	
増 額 率	39 %	
官 売 率	96 %	
買 撲 率	4 %	

M1 杭州 県変遷図

年 代	外 県								郭下
太平興國中	南 新 場	新 城	昌 化	臨 安	鹽 官	富 陽	餘 杭	於 潛	仁 和 錢 塘
淳化5年 994	① 昭德県								
6年	② 南新県								
旧額設定	1○	2○	3○	4○	5×	6○	7○	8○	○
熙寧5年 1072	③→								
10年		○7	○6	○5	○4	○3	×2	○1	○

() 内の県は、太平興國後に所属した県

存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の1～9の地（州県務9），及び湯村（鎮市務1）で計10処である。酒務地10処に占める存続地の比率である存続率（10÷10）は、100%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率0%である。以上の杭州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M1 杭州 鎮変遷図

県	新城	仁和				
鎮	南新	仁和	江漲橋	北關	范浦	臨平
端拱1年	南新場	仁和②	①建置	①建置	①建置	①建置
淳化5年	照德縣	湯村改名				
6年	南新縣	④改名				
旧務年代	○	×	×	×	○	×
熙寧5年	南新鎮	⑤降格				
10年	○	×	○	×	○	×
元豐	○	×	○	×	○	×

×：商税務不置，○：商税務設置

M1 杭州 格大都監府 地理表（主戸164,293 客戸38,523 計202,816 貢 綾、藤紙）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 9
望 錢塘	郭下	11	4	36	南場・北關・安溪・西溪鎮		
				塩監 1	名称不記	浙江	1
望 仁和	郭下	9	4	44	臨平・范浦・江漲橋・湯村鎮		
				塩場 1	名称不記	浙江	1
望 餘杭	西北 72	9	0	0		南下湖	1
望 臨安	西 120	21	0	0		南溪，猷溪	2
緊 富陽	西南 73	10	0	0		浙江	0
緊 於潛	西 203	6	1	16	保城鎮	印渚	1
上 新城	西南 130	12	2	16	東安・南新鎮	桐溪	1
上 鹽官	東 129	6	1	16	長安鎮		
				塩監 1	名称不記		0
中 昌化	西 248	4	0	0	塩場 1	柴溪	1
計 9		88	12	13	土 乾地黃、牛膠、藤紙、蜜、乾麩、緋綾、白編綾、海蛤、 産 橘、木瓜		10種

M1 杭州

酒 務 表

外 県	置 務 率	置 務 率	州 県 務	州 県 務 率	鎮 市 務	鎮 市 務 率	酒 務	併 設 地	併 設 率	旧 商 税 務	対 旧 商 税 率	新 税 務 地	新 務 地 率	新 商 税 務	対 新 商 税 率	存 続 地	存 続 率
8	8	100	9	90	8	10	10	8	80	13	62	9	90	15	60	10	100
併 設 地		州 県	¹ 在城・ ² 餘杭・ ³ 富陽・ ⁴ 新城・ ⁵ 南新・ ⁶ 於潛・ ⁷ 昌化・ ⁸ 臨安														8 処
計 8		鎮 市															0 処
新 税 務 地		州 県	⁹ 1 ～ 8 の地, 鹽官														9 処
計 9		鎮 市															0 処
存 続 地		州 県	1 ～ 9 の地														9 処
計 10		鎮 市	¹⁰ 湯村														1 処
不 明 地														0 処	不 明 率		0 %

注 鹽官県, 旧務年代は酒務のみ

注

- (1) 県変遷図の作成史料は拙著『北宋の商業活動』(久留米大学経済学会, 2005年), 367・368頁参照。
- (2) (1)の書366頁に掲載。
- (3) (1)の書366頁に掲載。
- (4) (1)の書369頁の地理表を移録。

2 越州

(1) 酒統計

越州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

越州 M2

舊。在城及上虞・餘姚・蕭山・諸暨・山陰・剡県・臨浦・西
興・漁浦鎮十務

①郭下, 酒務数に入れず

歳

123,297貫

熙寧十年祖額

83,707貫098文

① 買撲

33,385貫 044文 ①原文、貫

旧額123,297貫，新額（官売＋買撲）117,092貫（文は計算せず）で，両額の差額は－6,205貫，増加率－5％になる。官売額83,707貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は71％，買撲額33,385貫が占める比率である買撲率は29％になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M2 越州 銭 額 表

旧 額	123,297 貫	
新 額	官 売	83,707 貫
	買 撲	33,385 貫
	計	117,092 貫
新旧差額	－6,205 貫	
増 額 率	－5 %	
官 売 率	71 %	
買 撲 率	29 %	

(2) 酒務表

宋本寰宇記96・九域志5により太平興國中～元豊間の越州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県5・鎮市3を記すが，それらの酒務からは旧務年

M2 越州 県変遷図

年 代	外 県						郭下	
太平興國中 976～983	新 昌	蕭 山	上 虞	餘 姚	諸 暨	剡 県	山 陰	會 稽
旧務年代	1○	2○	3○	4○	5○	6○	○	
熙寧10年 1077	○6	○5	○4	○3	○2	○1	○	

代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶曆前に従っておく。なお陰山県務は部下県務であるので酒務数に入れない。

図によれば熙寧10年前の旧外県6，県酒務5であるので，県置務率は（5÷6）は83％になる。州県務（在城＋県務5）は6務である。全酒務9務に占める州県務の比率である州県務率（6÷9）は，67％になる。鎮市務は3務で，鎮市務率（3÷9）は，33％になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²上虞・³餘姚・⁴蕭山・⁵諸暨・⁶剡県（州県務6）及び⁷西興・⁸漁浦（鎮市務2）の計8処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地9処に占める併設地の比率である併設率（8÷9）は，89％になる。旧商税務9処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率（8÷9）は，89％になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記の 1～6 の地（州県務 6），及び 7・8 の地（鎮市務 2）の計 8 処である。酒務地 9 処に対する新税務地の比率である新務地率（ $8 \div 9$ ）は、89%になる。新商税務 13 処⁽³⁾に対する新税務地の比率である対新商税務率（ $8 \div 13$ ）は、62%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1～6 の地（州県務 6），及び 7・8（鎮市務 2）で計 8 処である。酒務地 9 処に占める存続地の比率である存続率（ $8 \div 9$ ）は、89%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地は臨浦務のみで、不明地が酒務地 9 に占める比率である不明率（ $1 \div 9$ ）は、11%になる。以上の越州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M2 越州 格大都監府 地理表（主戸152,585 客戸337 計152,922 貢 越綾，輕容紗，茜緋花紗）

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 14
望 會稽	郭下	14	5	35	0	東城・曹娥・纂風・平水・三界鎮	大海，曹娥江	2
望 山陰	郭下	14	1	7	0	錢清鎮	大江，鏡湖，蓮河	3
望 剡県	東南 180	27	0	0	0		剡溪	1
望 諸暨	西南 142	25	0	0	銀冶 1	龍泉銀冶	浣江，暨浦	2
望 餘姚	東北 147	15	0	0	0		餘姚江	1
望 上虞	東 120	14	1	7	0	五夫鎮	上虞江，運河	2
緊 蕭山	西北 100	15	2	13	0	西興・漁浦鎮	浙江，運河	2
緊 新昌	東南 220	8	0	0	0		眞水	1
計 8		132	9	6	1	土産 緋紗，瓷器，越綾，柑橘，葛根，交梭白綾（宋本）		7 種

M2 越州

酒 務 表

外 県 6	置 務 県 5	置 務 率 83	州 県 務 6	州 県 務 率 67	鎮 市 務 3	鎮 市 務 率 33	酒 務 9	併 設 地 8	併 設 率 89	旧 商 税 務 9	対 税 務 率 89	新 税 務 地 9	新 務 地 率 89	新 商 税 務 13	対 新 商 税 務 率 62	存 続 地 8	存 続 率 89	
併 設 地			州 県	¹ 在城・ ² 上虞・ ³ 餘姚・ ⁴ 蕭山・ ⁵ 諸暨・ ⁶ 剡県												6 処		
計 8			鎮 市	⁷ 西興・ ⁸ 漁浦												2 処		
新税務地			州 県	1～6の地												6 処		
計 8			鎮 市	7・8の地												2 処		
存 続 地			州 県	1～6の地												6 処		
計 8			鎮 市	7・8の地												2 処		
不 明 地			臨浦										1 処		不 明 率		11 %	

注 陰山、郭下、酒務数に入れず

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著370頁参照。
- (2) (1)の書370頁に掲載。
- (3) (1)の書370頁に掲載。
- (4) (1)の書371頁の地理表を移録。

3 蘇州

(1) 酒統計

蘇州の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

蘇州 M3

舊。在城及常熟・呉江県・福山・慶安・木瀆・崑山鎮七務

歳 283,251貫

熙寧十年祖額 263,122貫 223文

買撲 24,262貫 548文

旧額283,251貫，新額（官売＋買撲）287,384貫（文は計算せず）で，両額の差額は4,133貫，増加率1％になる。官売額263,122貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は92％，買撲額24,262貫が占める比率である買撲率は8％になる。以上の諸数値を錢額表にまとめる。

M3 蘇州 錢 額 表

旧 額	283,251 貫	
新 額	官 売	263,122 貫
	買 撲	24,262 貫
	計	287,384 貫
新旧差額	4,133 貫	
増 額 率	1 %	
官 売 率	92 %	
買 撲 率	8 %	

(2) 酒務表

宋本寰宇記91・九域志5により太平興國中～元豊間の蘇州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県2・鎮市4を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

M3 蘇州 県変遷図

年 代	外 県			郭 下	
太平興國中	崑 山	吳 江	常 熟	長 洲	吳 県
旧務年代	1○	2○	3○		○
熙寧10年 1077	○3	○2	○1		○
	↓	↓	↓	↓	↓

図によれば熙寧10年前の旧外県3，県酒務2であるので，県置務率は $(2 \div 3)$ は67％になる。州県務（在城＋県務2）は3務である。全酒務7務に占める州県務の比率である州県務率 $(3 \div 7)$ は，43％になる。鎮市務は4務で，鎮市務率 $(4 \div 7)$ は，57％になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²常熟・³吳江（州県務3）及び⁴福山鎮（鎮市務1）の計4処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地7処に占める併設地の比率である併設率 $(4 \div 7)$ は，57％になる。旧商税務5処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(4 \div 5)$ は，80％になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記1～3の地（州県務3），及び4の地・⁵慶安・⁶木瀆（鎮市務3）の計6処である。酒務地7処に対する新税務地の比率である新務地率 $(6 \div 7)$ は，86％に

なる。新商稅務 8 処⁽³⁾ に対する新稅務地 6 の比率である対新商稅務率 (6 ÷ 8) は、75% になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾ にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1 ～ 3 の地 (州縣務 3)、及び 4 ～ 6 の地 (鎮市務 3) で計 6 処である。酒務地 7 処に占める存続地の比率である存続率 (6 ÷ 7) は、86% になる。なお旧商稅務・新商稅務・地理表にみえない不明地は崑山鎮務⁷ で、不明地が酒務地 7 に占める比率である不明率 (1 ÷ 7) は、14% になる。以上の蘇州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M3 蘇州 格望 地理表 (主戸158,767 客戸15,202 計173,969 貢 席, 蛇牀子, 葛, 白石脂)

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 9
望 吳県	郭下	20	1	5	0	木瀆鎮	吳江, 太湖	2
望 長洲	郭下	19	0	0	0		松江, 運河	2
望 崑山	東 70	14	0	0	0		松江	1
望 常熟	北 75	9	3	33	0	福山・慶安・梅里鎮	大江, 運河	2
緊 吳江	南 40	4	0	0	0		吳江, 運河	2
計 5		66	4	6	0	土産 絲葛, 白石脂, 藕, 綾, 蓆, 草履, 蛇床子		7 種

M3 蘇州 酒 務 表

外 県 3	置 務 県 2	置 務 率 67	州 県 務 3	州 県 務 率 43	鎮 市 務 4	鎮 市 務 率 57	酒 務 7	併 設 地 4	併 設 率 57	旧 商 税 務 5	対 旧 商 税 務 率 80	新 税 務 地 6	新 務 地 率 86	新 商 税 務 8	対 新 商 税 務 率 75	存 続 地 6	存 続 率 86
併 設 地		州 県	¹ 在 城 ・ ² 常 熟 ・ ³ 吳 江														3 処
計 4		鎮 市	⁴ 福 山														1 処
新 税 務 地		州 県	1 ～ 3 の 地														3 処
計 6		鎮 市	4 の 地, ⁵ 慶 安 ・ ⁶ 木 瀆														3 処
存 続 地		州 県	1 ～ 3 の 地														3 処
計 6		鎮 市	4 ～ 6 の 地														3 処
不 明 地			⁷ 崑 山 鎮										1 処	不 明 率		14 %	

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著、372頁参照。
- (2) (1)の書372頁に掲載。
- (3) (1)の書372頁に掲載。
- (4) (1)の書373頁の地理表を移録。

4 潤州

(1) 酒統計

潤州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

潤州 M4

舊。在城及丹徒県・金壇・延陵県・丁角・呂城鎮六務

①郭下県，麴務数に入れず

歳	67,323貫
熙寧十年祖額	66,670貫413文
買撲	20,759貫227文

旧額67,323貫，新額（官売＋買撲）87,429貫（文は計算せず）で，両額の差額は20,106貫，増加率30%になる。官売額66,670貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は76%，買撲額20,759貫が占める比率である買撲率は24%になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M4 潤州 銭 額 表

旧 額	67,323 貫	
新 額	官売	66,670 貫
	買撲	20,759 貫
	計	87,429 貫
新旧差額	20,106 貫	
増 額 率	30 %	
官 売 率	76 %	
買 撲 率	24 %	

(2) 酒務表

寰宇記89・九域志5により太平興國中～元豊間の潤州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県2・鎮市2を記すが，それらの酒務からは旧務年代は

不明であるので、一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。丹徒県務は郭下県務であり酒務数に入れない。また新旧商税務表にも丹徒県がみえるが、税務数に入れないことにする。

図によれば熙寧10年前の旧外県 3，県酒務 2

であるので、県置務率は $(2 \div 3)$ は 67% になる。州県務（在城 + 県務 2）は 3 務である。全酒務 5 務に占める州県務の比率である州県務率 $(3 \div 5)$ は、60% になる。鎮市務は 2 務で、鎮市務率 $(2 \div 5)$ は、40% になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²金壇（州県務 2）及び³呂城鎮（鎮市務 1）の計 3 処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地 5 処に占める併設地の比率である併設率 $(3 \div 5)$ は、60% になる。旧商税務 5 処⁽²⁾（丹徒は税務に入れず）に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(3 \div 5)$ は、60% になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記の 1・2 の地・⁴延陵県（州県務 3），及び 3 の地・⁵丁角（鎮市務 2）の計 5 処である。酒務地 5 処に対する新税務地の比率である新務地率 $(5 \div 5)$ は、100% になる。新商税務 7 処⁽³⁾（丹徒は税務に入れず）に対する新税務地の比率である対新商税務率 $(5 \div 7)$ は、71% になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1・2・4 の地（州県務 3），及び 3・5（鎮市務 2）で計 5 処である。酒務地 5 処に占める存続地の比率である存続率 $(5 \div 5)$ は、100% になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は 0% である。以上の潤州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M4 潤州 県変遷図

年 代	外 県			郭下
太平興國中	延陵	丹陽	金壇	丹徒
旧務年代	1×	2○	3○	○
熙寧5年 1072	①→			
10年		2○	1○	○

M4 潤州 格望 地理表 (主戸33,318 客戸21,480 計54,798 貢 羅,綾)

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 6
緊 丹徒	郭下	8	3	37		丹徒・大港・丁角鎮 圖山寨	揚子江, 潤浦	2
緊 丹陽	東南 64	12	2	16	0	延陵・呂城鎮	運河, 後湖, 練湖	3
緊 金壇	東南 140	9	0	0	0		長塘湖	1
計 3		29	5	17	1	土産 方紋綾, 水波綾, 羅綿絹		3 種

M4 潤州 酒 務 表

外 県 3	置 務 県 2	置 務 率 67	州 県 務 3	州 県 務 率 60	鎮 市 務 2	鎮 市 務 率 40	酒 務 5	併 設 地 3	併 設 率 60	旧 商 税 務 5	対 旧 商 税 務 率 60	新 税 務 地 5	新 務 地 率 100	新 商 税 務 7	対 新 商 税 務 率 71	存 続 地 5	存 続 率 100
併 設 地		州 県	¹ 在城・ ² 金壇														2 処
計 3		鎮 市	³ 呂城														1 処
新税務地		州 県	1・2の地, ⁴ 延陵県														3 処
計 5		鎮 市	3の地, ⁵ 丁角														2 処
存 続 地		州 県	1・2・4の地														3 処
計 5		鎮 市	3・5の地														2 処
不 明 地			0 処											不 明 率		0 %	

注 延陵県, 旧務年代は酒務のみ 丹徒, 郭下, 酒務数に入れず

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著, 374頁参照。
- (2) (1)の書373頁に掲載。
- (3) (1)の書373頁に掲載。
- (4) (1)の書375頁の地理表を移録。

5 湖州

(1) 酒統計

湖州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

湖州 M5

 舊。在城及長興・烏城・歸安・安吉・德清・武康^①七務

①郭下県，酒務数に入れず

歳 109,657貫
 熙寧十年祖額 98,369貫 676文
 買撲 37,747貫 884文

旧額109,657貫，新額（官売＋買撲）136,116貫（文は計算せず）で，両額の差額は26,459貫，増加率24%になる。官売額98,369貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は72%，買撲額37,747貫が占める比率である買撲率は28%になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M5 湖州 銭 額 表

旧 額	109,657 貫	
新 額	官 売	98,369 貫
	買 撲	37,747 貫
	計	136,116 貫
新旧差額	26,459 貫	
増 額 率	24 %	
官 売 率	72 %	
買 撲 率	28 %	

(2) 酒務表

寰宇記94・九域志5により太平興國中～元豊間の湖州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県4・鎮市1を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

M5 湖州 県変遷図

年 代	外 県				郭 下	
	武 康	德 清	長 興	安 吉	歸 安	烏 程
太平興国 7 年 982					① 建置	
旧務年代	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○		○
熙寧 10 年 1077	○ 4	○ 3	○ 2	○ 1		○

図によれば熙寧10年前の旧外県4，県酒務4であるので，県置務率は $(4 \div 4)$ は100%になる。州県務（在城＋県務4）は5務である。全酒務6務にしめる州県務の比率である州県務率 $(5 \div 6)$ は，83%になる。鎮市務は1務で，鎮市務率 $(1 \div 6)$ は，17%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²長興・³安吉・⁴德清・⁵武康（州県務5）の計5処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地6処に占める併設地の比率である併

設率（ $5 \div 6$ ）は、83%になる。旧商税務10処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率（ $5 \div 10$ ）は、50%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記の1～5の地（州県務5）の計5処である。酒務地6処に対する新税務地の比率である新務地率（ $5 \div 6$ ）は、83%になる。新商税務10処⁽³⁾に対する新税務地の比率である対新商税務率（ $5 \div 10$ ）は、50%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の1～5の地の計5処である。酒務地6処に占める存続地の比率である存続率（ $5 \div 6$ ）は、83%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地は烏城務で、酒務地6に占める比率である不明率（ $1 \div 6$ ）は、17%になる。以上の湖州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M5 湖州 格上 地理表（主戸134,612 客戸10,509 計145,121 貢 白紵, 漆器）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計10
望 烏程	郭下	11 1	9	0	烏墩鎮	太湖, 苕溪, 霅溪	3
望 歸安	郭下	10 1	10	0	施渚鎮	吳興塘	1
望 安吉	西南 171	16 1	6	0	梅溪鎮	苕水, 揚子湖	2
望 長興	西北 70	15 2	13	0	西安・水口鎮	西湖	1
緊 德清	南 105	6 1	16	0	新市鎮	苕溪	1
上 武康	西南 107	4 0	0	0		前溪, 餘不溪	2
計 6		62 6	9	0	土産 紫笋菜, 木瓜, 糝煎, 重杭子, 白紵布		5種

M5 湖州

酒 務 表

外 県 4	置 務 県 4	置 務 率 100	州 県 務 5	州 県 務 率 83	鎮 市 務 1	鎮 市 務 率 17	酒 務 6	併 設 地 5	併 設 率 83	旧 商 稅 務 10	対 旧 商 稅 率 50	新 稅 務 地 5	新 稅 務 地 率 83	新 商 稅 務 10	対 新 商 稅 率 50	存 続 地 5	存 続 率 83
併 設 地		州 県	¹ 在城・ ² 長興・ ³ 安吉・ ⁴ 德清・ ⁵ 武康														5 処
計 5		鎮 市															0 処
新稅務地		州 県	1 ～ 5 の地														5 処
計 5		鎮 市															0 処
存 続 地		州 県	1 ～ 5 の地														5 処
計 5		鎮 市															0 処
不 明 地			⁶ 烏城											1 処	不 明 率		17 %

注 歸安、郭下、酒務数に入らず

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著、376頁参照。
- (2) (1)の書375頁に掲載。
- (3) (1)の書375頁に掲載。
- (4) (1)の書376頁の地理表を移録。

6 婺州

(1) 酒統計

婺州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

婺州 M6

舊。在城及東陽・義烏・永康・武義・浦江・蘭溪県・李溪・

孝順鎮九務

①原文，李。志，孝

①
歳

120,412貫

熙寧十年祖額

64,054貫701文

買撲

29,373貫909文

旧額120,412貫，新額（官売＋買撲）93,427貫（文は計算せず）で，両額の差額は－26,985貫，増加率－22％になる。官売額64,054貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は69％，買撲額29,373貫が占める比率である買撲率は31％になる。以上の諸数値を錢額表にまとめる。

M6 婺州 錢 額 表

旧 額	120,412 貫	
新 額	官売	64,054 貫
	買撲	29,373 貫
	計	93,427 貫
新旧差額	－26,985 貫	
増 額 率	－22 %	
官 売 率	69 %	
買 撲 率	31 %	

(2) 酒務表

寰宇記97・九域志5により太平興國中～元豊間の婺州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県6・鎮市2を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

M6 婺州 県変遷図

年 代	外 県						郭下
太平興國中	浦江	武義	永康	蘭溪	義烏	東陽	金華
旧務年代	1○	2○	3○	4○	5○	6○	○
熙寧10年 1077	○6	○5	○4	○3	○2	○1	○

図によれば熙寧10年前の旧外県6，県酒務6であるので，県置務率は（6÷6）は100％になる。州県務（在城＋県務6）は7務である。全酒務9務にしめる州県務の比率である州県務率（7÷9）は，78％になる。鎮市務は2務で，鎮市務率（2÷9）は，22％になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²東陽・³義烏・⁴永康・⁵武義・⁶浦江・⁷蘭溪県（州県務7）及び⁸李溪（鎮市務1）の計8処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地9処に占める併設地の比率である併設率（8÷9）は，89％になる。旧商税務8処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率（8÷8）は，100％になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記の1～7の地（州県務7），及び⁹孝順鎮（鎮市務1）の計8処である。酒務地9処に対する新税務地の比率である新務地率（8÷9）は，89％になる。新商税務9

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の1～7の地（州県務7）、及び9の地（鎮市務1）で計8処である。酒務地9処に占める存続地の比率である存続率（8÷9）は、89%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は、0%である。以上の婺州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考		水 系	計 7
望 金華	郭下	13	1	7		孝順鎮	東陽江	1
望 東陽	東 155	14	0	0	銀場 1	名称不記	東陽江	1
望 義烏	東北 110	8	0	0	0		義烏溪	1
望 蘭溪	西北 55	10	0	0	0		蘭溪	1
緊 永康	東南 109	10	0	0	0		永康溪	1
上 武義	南 90	4	0	0	0		永康溪	1
上 浦江	東 120	7	0	0	0		浦陽江	1
計 7		66	1	1	1	土産 綿, 紵, 絹		3 種

外 県 6	置 務 県 6	置 務 率 100	州 県 務 7	州 県 務 率 78	鎮 市 務 2	鎮 市 務 率 22	酒 務 9	併 設 地 8	併 設 率 89	旧 商 税 務 8	対 税 務 率 100	新 税 務 地 8	新 務 地 率 89	新 商 税 務 9	対 税 務 率 89	存 続 地 8	存 続 率 89
併 設 地			州 県	1 在城・2 東陽・3 義烏・4 永康・5 武義・6 浦江・7 蘭溪												7 処	
計 8			鎮 市	8 李溪												1 処	
新 税 務 地			州 県	1 ～ 7 の地												7 処	
計 8			鎮 市	9 孝順鎮												1 処	
存 続 地			州 県	1 ～ 7 の地												7 処	
計 8			鎮 市	9 の地												1 処	
不 明 地													0 処	不 明 率		0 %	

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著，377頁参照。
- (2) (1)の書377頁に掲載。
- (3) (1)の書377頁に掲載。
- (4) (1)の書378頁の地理表を移録。

7 明州

(1) 酒統計

明州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

明州 M7

舊。在城及奉化・慈溪・定海県・小溪鎮五務

歳	83,154貫
熙寧十年祖額	83,116貫395文
買撲	25,479貫192文

旧額83,154貫，新額（官売＋買撲）108,595貫（文は計算せず）で，両額の差額は25,441貫，増加率31%になる。官売額83,116貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は77%，買撲額25,479貫が占める比率である買撲率は23%になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M7 明州 銭 額 表

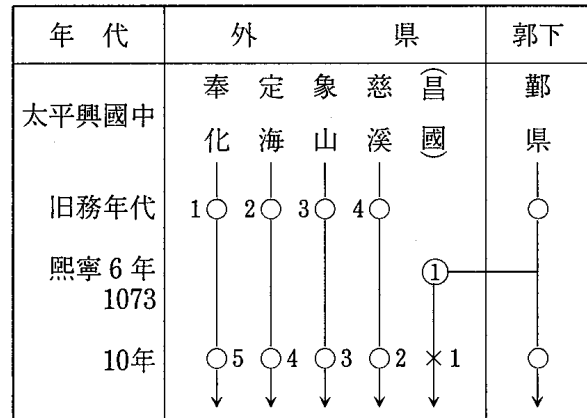
旧 額	83,154 貫	
新 額	官売	83,116 貫
	買撲	25,479 貫
	計	108,595 貫
新旧差額	25,441 貫	
増 額 率	31 %	
官 売 率	77 %	
買 撲 率	23 %	

(2) 酒務表

寰宇記98・九域志5により太平興國中～元豊間の明州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県3・鎮市1を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県 4，
 県酒務 3 であるので，県置務率は $(3 \div 4)$ は 75% になる。州県務（在城 + 県務 3）
 4 務である。全酒務 5 務に占める州県務
 の比率である州県務率 $(4 \div 5)$ は，80
 % になる。鎮市務は 1 務で，鎮市務率
 $(1 \div 5)$ は，20% になる。

M7 明州 県変遷図



次に酒統計に○印を付した¹在城・²奉化・³慈溪・⁴定海県（州県務 4）の計 4 処が
 酒務・旧商税務の併設地である。酒務地 5 処に占める併設地の比率である併設率
 $(4 \div 5)$ は，80% になる。旧商税務 5 処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税
 務率 $(4 \div 5)$ は，80% になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付し
 た上記の 1～4 の地（州県務 4）の計 4 処である。酒務地 5 処に対する新税務地
 の比率である新務地率 $(4 \div 5)$ は，80% になる。新商税務 5 処⁽³⁾に対する新税
 務地の比率である対新商税務率 $(4 \div 5)$ は，80% になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存
 続地は，酒統計表の地名に△印を付している。存続
 地は上記の 1～4 の地（州県務 4），及び⁵小溪鎮（鎮市
 務 1）で計 5 処である。酒務地 5 処に占める存続地の
 比率である存続率 $(5 \div 5)$ は，100% になる。なお旧
 商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく，
 不明率は 0 % である。以上の明州の酒務・諸数値を
 酒務表に整理して示す。

県	定 海	奉 化
鎮	蟹 浦	公 塘
雍熙 4 年 987	① 建置	
天禧 4 年 1020		② 建置
旧務年代	×	×
熙寧 10 年 1077	×	×
元豊 1078～1085	○	○

×：税務表にみえず
 ○：地理表にみえる

M7 明州 格上 地理表 (主戸57,874 客戸57,334 計115,208 貢 綾, 乾山積, 烏鰂魚骨)

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 4
望 鄞県	郭下	13	1	7	0	小溪鎮	廣徳湖 1
望 奉化	南 80	8	1	12	0	公塘鎮	0
上 慈溪	西 60	5	0	0	塩場 1	鳴鶴鹽場	慈溪 1
上 定海	東北 71	6	1	16	0	蟹浦鎮	大浹江 1
下 象山	東南 360	3	0	0	0		0
下 昌國	東北 175	4	0	0	塩場 1	名称不記	西湖 1
計 6		39	3	7	2	土産 絹, 海物, 舶船, 紅蝦鮓, 大蝦米	5 種

M7 明州 酒 務 表

外 置 置 州 州 鎮 鎮 酒 併 併 旧 対 新 新 新 対 存 存	県 務 務 県 県 市 市 務 設 設 商 税 税 税 税 続 続	4 3 750 4 80 1 20 5 4 80 5 80 4 80 5 80 5 100
併 設 地	州 県	¹ 在城・ ² 奉化・ ³ 慈溪・ ⁴ 定海 4 処
計 4	鎮 市	0 処
新 税 務 地	州 県	1 ~ 4 の地 4 処
計 4	鎮 市	0 処
存 続 地	州 県	1 ~ 4 の地 4 処
計 5	鎮 市	⁵ 小溪鎮 1 処
不 明 地		0 処 不明率 0 %

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著, 379頁参照。
- (2) (1)の書378頁に掲載。
- (3) (1)の書379頁に掲載。
- (4) (1)の書380頁の地理表を移録。

8 常州

(1) 酒統計

常州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

常州 M8

舊。在城及宜興・奔牛・望亭偃・萬歲・湖汙・青城・橫林・
張渚鎮九務

②
歲

105,865貫

熙寧十年祖額

120,136貫 702文

買撲

27,129貫 817文

①原文，漢。志，汙

②原文，緒。志，渚

旧額貫105,865，新額（官売＋買撲）147,265貫（文は計算せず）で，両額の差額は41,400貫，増加率39%になる。官売額120,136貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は82%，買撲額貫27,129が占める比率である買撲率は18%になる。以上の常州諸数値を錢額表にまとめる。

M8 常州 錢 額 表

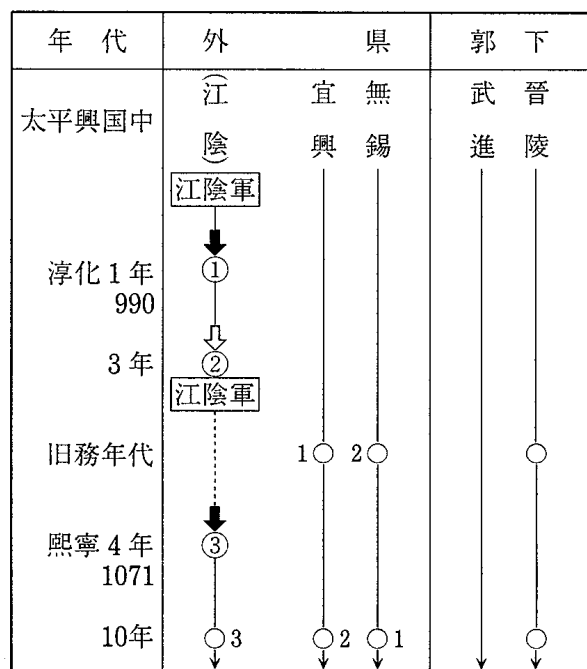
旧 額	105,865 貫	
新 額	官売	120,136 貫
	買撲	27,129 貫
	計	147,265 貫
新旧差額	41,400 貫	
増 額 率	39 %	
官 売 率	82 %	
買 撲 率	18 %	

(2) 酒務表

寰宇記92・九域志5により太平興國中～元豊間の諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県1・鎮市7を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県2，県酒務1であるので，県置務率は（1÷2）は50%になる。州県務（在城＋県務1）は2務である。全酒務9務に占める州県務の比率である州県務率（2÷9）は22%になる。鎮市務は7務で，鎮市務

M8 常州 県変遷図



率（ $7 \div 9$ ）は78%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²宜興県（州県務2）及び³湖汙（鎮市務1）の計3処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地9処に占める併設地の比率である併設率（ $3 \div 9$ ）は、33%になる。旧商税務5処²に占める併設地の比率である対旧商税務率（ $3 \div 5$ ）は、60%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記のの1・2の地（州県務2）、及び3の地・⁴奔牛・⁵萬歳・⁶青城・⁷張渚鎮（鎮市務5）の計7処である。酒務地9処に対する新税務地の比率である新務地率（ $7 \div 9$ ）は、78%になる。新商税務11処³に対する新税務地の比率である対新商税務率（ $7 \div 11$ ）は、64%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁴にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の1・2の地（州県務2）、及び3～7の地・⁸望亭偃・⁹横林（鎮市務7）で計9処である。酒務地9処に占める存続地の比率である存続率（ $9 \div 9$ ）は、100%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は0%である。以上の常州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M8 常州 格望 地理表（主戸90,852 客戸45,508 計136,360 貢 白紵, 紗, 席）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計12
望 晉陵	郭下	20 1	5	0	横林鎮	揚子江, 太湖, 運河	3
望 武進	郭下	15 3	20	0	奔牛・青城・萬歳鎮	運河, 滬湖	2
望 無錫	東 91	23 1	4	0	望亭鎮	運河, 無錫湖	2
望 宜興	西南 120	16 2	12	0	湖汙・張渚鎮	運河, 太湖, 陽羨溪	3
望 江陰	東北 90	19 3	15	0	利城・茶林・石橋鎮	芙蓉湖, 大江	2
計 5		93 10	10	0	土産 紅紫綿布, 白紵布, 緊紗, 紫笋茶, 薯蕷, 龍鳳細席		6 種

M8 常州

酒 務 表

外 県 2	置 務 県 1	置 務 率 50	州 県 務 2	州 県 務 率 22	鎮 市 務 7	鎮 市 務 率 78	酒 務 9	併 設 地 3	併 設 率 33	旧 商 稅 務 5	對 稅 舊 商 率 60	新 稅 務 地 7	新 稅 務 地 率 78	新 商 稅 務 11	對 稅 新 商 率 64	存 続 地 9	存 続 率 100
併 設 地			州 県	¹ 在城・ ² 宜興													2 処
計 3			鎮 市	³ 湖湫													1 処
新稅務地			州 県	1・2 の地													2 処
計 7			鎮 市	⁴ 3 の地, ⁵ 奔牛・ ⁶ 萬歲・ ⁷ 青城・ ⁷ 張渚鎮													5 処
存 続 地			州 県	1・2 の地													2 処
計 9			鎮 市	⁸ 3 ～ 7 の地, ⁹ 望亭偃・ ⁹ 横林													7 処
不 明 地			0 処										不 明 率		0 %		

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著, 381頁参照。
- (2) (1)の書380頁に掲載。
- (3) (1)の書380～381頁に掲載。
- (4) (1)の書382頁の地理表を移録。

9 温州

(1) 酒統計

温州の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

温州 M9

舊。在城及永安・樂清・平陽・瑞安県・柳市・前倉鎮七務

歳 50,748貫

熙寧十年祖額 68,526貫052文

買撲 12,783貫383文

旧額50,748貫，新額（官売＋買撲）81,309貫（文は計算せず）で，両額の差額は30,561貫，増
加率60%になる。官売額68,526貫（文切捨）が
新額に占める比率である官売率は84%，買撲
額12,783貫が占める比率である買撲率は16%に
なる。以上の温州諸数値を銭額表にまとめる。

M9 温州 銭 額 表

旧 額	50,748 貫	
新 額	官 売	68,526 貫
	買 撲	12,783 貫
	計	81,309 貫
新旧差額	30,561 貫	
増 額 率	60 %	
官 売 率	84 %	
買 撲 率	16 %	

(2) 酒務表

宋本寰宇記99・九域志5により太平興國中
～元豊間の諸県の変化を県変遷図⁽²⁾に示す。酒
統計は在城・県3・鎮市3を記すが，それらの
酒務からは旧務年代は不明であるので，一般
的な旧務年代である景祐～慶暦前に従ってお
く。

M9 温州 県変遷図

年 代	外 県			郭下
太平興國中	平 陽	樂 清	瑞 安	永 嘉
旧務年代	1 ○	2 ×	3 ○	○
熙寧10年 1077	○ 3 ↓	○ 2 ↓	○ 1 ↓	○ ↓

図によれば熙寧10年前の旧外県3，県酒務3であるので，県置務率は $(3 \div 3)$
は100%になる。州県務（在城＋県務3）は4務である。全酒務7務に占める州県
務の比率である州県務率 $(4 \div 7)$ は，57%になる。鎮市務は3務で，鎮市務率
 $(3 \div 7)$ は，43%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²平陽・³瑞安県（州県務3）及び⁴永安・⁵柳市・
⁶前倉鎮（鎮市務3）の計6処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地7処に占
める併設地の比率である併設率 $(6 \div 7)$ は，86%になる。旧商税務6処⁽²⁾に占
める併設地の比率である対旧商税務率 $(6 \div 6)$ は，100%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付し
た上記の1～3の地・⁷樂清（州県務4），及び5・7の地（鎮市務2）の計6処であ
る。酒務地7処に対する新税務地の比率である新務地率 $(6 \div 7)$ は，86%にな

る。新商稅務 6 処⁽³⁾ に対する新稅務地の比率である対新商稅務率（6 ÷ 6）は、100%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾ にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1 ～ 3・7 の地（州縣務 4），及び 4 ～ 6（鎮市務 3）で計 7 処である。酒務地 7 処に占める存続地の比率である存続率（7 ÷ 7）は、100%になる。なお旧商稅務・新商稅務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は 0 %になる。以上の温州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M9 温州 格上 地理表（主戸80,489 客戸41,427 計121,916 貢 鮫魚皮、紙）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 3
緊 永嘉	郭下	13	0	0	塩場 1 永嘉鹽場	永嘉江	1
望 平陽	西南 105	10	3	30	前倉・榿槽・泥山鎮 塩場 1 天富鹽場	平陽江	1
緊 瑞安	南 80	12	2	16	瑞安・永安鎮 塩場 1 雙穗鹽場		0
上 樂清	東北 100	6	2	33	柳市・封市鎮 塩監 1 天富鹽監	大江	1
計 4		41	7	17	土産 4 鮫魚、鱒紙（宋本）		2 種

M9 温州 酒 務 表

外 置	置 務	州 縣	州 縣	鎮 市	鎮 市	酒 務	併 設	併 設	旧 商	対 税	新 税	新 務	新 商	対 税	存 続	存 続
県	県	率	務	務	務	率	地	率	稅	務	務	地	稅	務	地	率
3	3	100	4	57	3	43	7	6	86	6	100	6	86	6	100	7
併 設 地		州 縣	¹ 在城・ ² 平陽・ ³ 瑞安													3 処
計 6		鎮 市	⁴ 永安・ ⁵ 柳市・ ⁶ 前倉鎮													3 処
新稅務地		州 縣	1～3 の地， ⁷ 樂清													4 処
計 6		鎮 市	5・7 の地													2 処
存 続 地		州 縣	1～3・7 の地													4 処
計 7		鎮 市	4～6 の地													3 処
不 明 地		0 処											不 明 率		0 %	

注 柳市，新稅務地欄にみえず，存続地欄にみゆ 樂清県，旧務年代は酒務のみ

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著，383頁参照。
- (2) (1)の書382頁に掲載。
- (3) (1)の書382～383頁に掲載。
- (4) (1)の書384頁の地理表を移録。

10 台州

(1) 酒統計

台州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

台州 M10

舊。在城及黃巖・寧海・天台・仙居・県渚・渚路橋鎮・港頭
○□△ ○□△ ○□△ ○□△ ○□△ ○□△ ○□△
① ② ③ ④

八務

歳

81,298貫

熙寧十年祖額

69,044貫753文

買撲

3,103貫303文

①原文，崑。志，巖

②原文，臨。志，寧

③原文，諸。志，渚

④原文，欠。商税統計，渚路橋

旧額貫81,298，新額（官売＋買撲）72,147貫（文は計算せず）で，両額の差額は－9,151貫，増加率－11％になる。官売額69,044貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は96％，買撲額3,103貫が占める比率である買撲率は4％になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M10 台州 銭 額 表

旧 額	81,298 貫	
新 額	官売	69,044 貫
	買撲	3,103 貫
	計	72,147 貫
新旧差額	－9,151 貫	
増 額 率	－11 %	
官 売 率	96 %	
買 撲 率	4 %	

(2) 酒務表

寰宇記98・九域志5により太平興國中～元豊間の台州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾

に示す。酒統計は在城・県 4・鎮市 3 を記すが、それらの酒務からは旧務年代は不明であるので、一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県 4，県酒務 4 であるので，県置務率は $(4 \div 4)$ は 100% になる。州県務（在城＋県務 4）は 5

務である。全酒務 8 務にしめる州県務の比率である州県務率 $(5 \div 8)$ は，63% になる。鎮市務は 3 務で，鎮市務率 $(3 \div 8)$ は，37% になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²黄巖・³寧海・⁴天台・⁵仙居県（州県務 5）及び⁶県渚・⁷渚路橋鎮・⁸港頭（鎮市務 3）の計 8 処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地 8 処に占める併設地の比率である併設率 $(8 \div 8)$ は，100% になる。旧商税務 8 処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(8 \div 8)$ は，100% になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記の 1～5 の地（州県務 5），及び 6～8 の地（鎮市務 3）の計 8 処である。酒務地 8 処に対する新税務地の比率である新務地率 $(8 \div 8)$ は，100% になる。新商税務 8 処⁽³⁾に対する新税務地の比率である対新商税務率 $(8 \div 8)$ は，100% になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は，酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1～5 の地，及び 6・8 の地（鎮市務 2）で計 7 処である。酒務地 8 処に占める存続地の比率である存続率 $(7 \div 8)$ は，88% になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく，不明率は 0% になる。以上の台州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M10 台州 県変遷図

年 代	外 県				郭下
太平興國中	寧	永	天	黄	臨
	海	安	台	巖	海
景德 4 年 1077		↓改名 ② 仙居			
旧務年代	1○	2○	3○	4○	○
熙寧10年 1077	○4	○3	○2	○1	○
	↓	↓	↓	↓	↓

M10 台州 格上 地理表 (主戸120,481 客戸25,232 計145,713 貢 甲香, 金漆, 鮫魚皮)

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 6
望 臨海	郭下	15	2	13	0	大田・章安鎮	臨海江, 始豐溪	2
望 黃巖	東南 106	12	5	41	塩場 2	嶠嶺・于浦・新安・青嶺・鹽監鎮 于浦・杜瀆鹽場	永寧江	1
緊 寧海	東北 170	6	2	33	0	港頭・県渚鎮		0
上 天台	西 110	4	0	0	0		銅溪・靈溪	2
上 仙居	西 105	6	0	0	0		永安溪	1
計 5		43	9	20	2	土産 海物, 絹, 乾薑, 甲香, 鮫魚皮		5 種

M10 台州 酒 務 表

外 県 4	置 務 県 4	置 務 率 100	州 県 務 5	州 県 務 率 63	鎮 市 務 3	鎮 市 務 率 37	酒 務 8	併 設 地 8	併 設 率 100	旧 商 税 務 8	対 旧 商 税 務 率 100	新 税 務 地 8	新 務 地 率 100	新 商 税 務 8	対 新 商 税 務 率 100	存 続 地 7	存 続 率 88
併 設 地		州 県	¹ 在城・ ² 黄巖・ ³ 寧海・ ⁴ 天台・ ⁵ 仙居														5 処
計 8		鎮 市	⁶ 県渚・ ⁷ 渚路橋鎮・ ⁸ 港頭														3 処
新税務地		州 県	1～5 の地														5 処
計 8		鎮 市	6～8 の地														3 処
存 続 地		州 県	1～5 の地														5 処
計 7		鎮 市	6・8 の地														2 処
不 明 地			0 処											不 明 率		0 %	

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著, 385頁参照。
- (2) (1)の書384頁に掲載。
- (3) (1)の書384～385頁に掲載。
- (4) (1)の書385頁の地理表を移録。

11 處州

(1) 酒統計

處州の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

處州 M11

舊。在城及遂昌・青田・龍泉・縉雲・松陽・九龍・利山鎮

八務

歲 11,169貫

熙寧十年祖額 27,752貫586文

買撲 9,443貫292文

旧額11,169貫，新額（官売＋買撲）37,195貫（文は計算せず）で，両額の差額は26,026貫，増加率233%になる。官売額27,752貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は75%，買撲額9,443貫が占める比率である買撲率は25%になる。以上の諸数値を錢額表にまとめる。

M11 處州 錢 額 表

旧 額	11,169 貫	
新 額	官 売	27,752 貫
	買 撲	9,443 貫
	計	37,195 貫
新旧差額	26,026 貫	
増 額 率	233 %	
官 売 率	75 %	
買 撲 率	25 %	

(2) 酒務表

宋本寰宇記99・九域志5により太平興國中～元豊間の處州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県5・鎮市2を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶曆前に従っておく。

M11 處州 県変遷図

年 代	外 県					郭下
太平興國中	青 田	遂 昌	縉 雲	白 龍 泉		麗 水
咸平2年 999				改名 ①松陽		
旧務年代	1○	2○	3○	4○	5○	○
熙寧10年 1077	○5	○4	○3	○2	○1	○

図によれば熙寧10年前の旧外県 5，県酒務 5 であるので，県置務率は $(5 \div 5)$ は100%になる。州県務（在城+県務 5）は 6 務である。全酒務 8 務に占める州県務の比率である州県務率 $(6 \div 8)$ は，75%になる。鎮市務は 2 務で，鎮市務率 $(2 \div 8)$ は25%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²遂昌・³青田・⁴龍泉・⁵縉雲・⁶松陽県（州県務 6）の計 6 処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地 8 処に占める併設地の比率である併設率 $(6 \div 8)$ は，75%になる。旧商税務 7 処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(6 \div 7)$ は，86%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記の 1～6 の地（州県務 6）の計 6 処である。酒務地 8 処に対する新税務地の比率である新務地率 $(6 \div 8)$ は，75%になる。新商税務 6 処⁽³⁾に対する新税務地 6 の比率である対新商税務率 $(6 \div 6)$ は，100%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は，酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1～6 の地（州県務 6），及び⁷九龍（鎮市務 1）で計 7 処である。酒務地 8 処に占める存続地の比率である存続率 $(7 \div 8)$ は，88%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地は⁸利山鎮で，不明地が酒務地 8 に占める比率である不明率 $(1 \div 8)$ は，13%になる。以上の處州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M11 處州 格上 地理表（主戸20,363 客戸68,995 計89,358 貢 綿，黃連）

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 6
望 麗水	郭下	10	1	10	0	九龍鎮	麗水	1
望 龍泉	西南 355	5	0	0	銀場 1	高亭銀場	龍泉湖	1
上 松陽	西北 92	5	1	20	0	松陽鎮	大溪	1
上 遂昌	西 240	4	0	0	銀場 1	永豐銀場	桐柏溪	1
上 縉雲	東北 110	5	1	20	0	胡陳鎮	好溪	1
中 青田	東南 150	3	0	0	0		青田溪	1
計 6		32	3	9	2	土產 海物，絹，乾薑，甲香，鮫魚皮（宋本，與台州同）		5 種

M11 處州

酒 務 表

外 県	置 務 県	置 務 率	州 県 務	州 県 務 率	鎮 市 務	鎮 市 務 率	酒 務	併 設 地	併 設 率	旧 商 税 務	対 旧 商 税 率	新 税 務 地	新 務 地 率	新 商 税 務	対 新 商 税 率	存 続 地	存 続 率
5	5	100	6	75	2	25	8	6	75	7	86	6	75	6	100	7	88
併 設 地 計 6		州県	¹ 在城・ ² 遂昌・ ³ 青田・ ⁴ 龍泉・ ⁵ 縉雲・ ⁶ 松陽													6 処	
		鎮市														0 処	
新税務地 計 6		州県	1～6の地													6 処	
		鎮市														0 処	
存 続 地 計 7		州県	1～6の地													6 処	
		鎮市	⁷ 九龍													1 処	
不 明 地		⁸ 利山鎮											1 処	不 明 率		13 %	

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著，387頁参照。
 (2) (1)の書386頁に掲載。
 (3) (1)の書386頁に掲載。
 (4) (1)の書387頁の地理表を移録。

12 衢州

(1) 酒統計

衢州市の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

衢州 M12

舊。在城及開化・^①龍游・^②南銀四務

歲

90,790貫

熙寧十年祖額

49,351貫946文

買撲

17,484貫586文

①原文，遊。志，游

②原文，鎮。志，南銀鎮

旧額90,790貫，新額（官売＋買撲）66,835貫（文は計算せず）で，両額の差額は－23,955貫，増加率－26％になる。官売額49,351貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は74％，買撲額17,484貫が占める比率である買撲率は26％になる。以上の諸数値を銭額表にまとめる。

M12 衢州 銭 額 表

旧 額	90,790 貫	
新 額	官売	49,351 貫
	買撲	17,484 貫
	計	66,835 貫
新旧差額	－23,955 貫	
増 額 率	－26 %	
官 売 率	74 %	
買 撲 率	26 %	

(2) 酒務表

寰宇記97・九域志5により太平興國中～元豊間の衢州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県2・鎮市1を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

M12 衢州 県変遷図

年 代	外 県				郭下
太平興國中	開	常	龍	江	西
	化	山	游	山	安
旧務年代	1○	2○	3○	4○	○
熙寧10年 1077	○4	○3	○2	○1	○
	↓	↓	↓	↓	↓

図によれば熙寧10年前の旧外県4，県酒務2であるので，県置務率は $(2 \div 4)$ は500％になる。州県務（在城＋県務2）は3務である。全酒務4務にしめる州県務の比率である州県務率 $(3 \div 4)$ は，75％になる。鎮市務は1務で，鎮市務率 $(1 \div 4)$ は，25％になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²開化・³龍游県（州県務3）の計3処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地4処に占める併設地の比率である併設率 $(3 \div 4)$ は，75％になる。旧商税務8処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(3 \div 8)$ は，38％になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は，酒統計に□印を付した上記の1～3の地（州県務3），及び⁴南銀（鎮市務1）の計4処である。酒務地4処に対する新税務地の比率である新務地率 $(4 \div 4)$ は，100％になる。新商税務

9 処⁽³⁾ に対する新税務地の比率である対新商税務率（4 ÷ 9）は、44%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾ にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1～3 の地（州県務 3）、及び 4 の地（鎮市務 1）で計 4 処である。酒務地 4 処に占める存続地の比率である存続率（4 ÷ 4）は、100%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は 0 % である。以上の衢州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M12 衢州 格上 地理表（主戸69,245 客戸17,552 計86,797 貢 綿、藤紙）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 5
望 西安	郭下	17	0	0	銀場 2	南銀・北銀場	信安溪 1
緊 江山	西 80	12	1	8	0	禮賓鎮	江山溪 1
上 龍游	東 75	11	1	9	0	白革湖鎮	穀水 1
中 常山	西 90	10	0	0	0		穀水 1
中 開化	東 80	7	0	0	0		馬金溪 1
計 5		57	2	3	2	土産 白紵布、大麻布、沙、扇、簞	5 種

M12 衢州 酒 務 表

外 県 4	置 務 県 2	置 務 率 50	州 県 務 3	州 県 務 率 75	鎮 市 務 1	鎮 市 務 率 25	酒 務 4	併 設 地 3	併 設 率 75	旧 商 税 務 8	対 税 務 率 38	新 税 務 地 4	新 務 地 率 100	新 商 税 務 9	対 新 商 務 率 44	存 続 地 4	存 続 率 100
併 設 地			州 県	¹ 在城・ ² 開化・ ³ 龍游													3 処
計 3			鎮 市														0 処
新税務地			州 県	1 ～ 3 の地													3 処
計 4			鎮 市	⁴ 南銀													1 処
存 続 地			州 県	1 ～ 3 の地													3 処
計 4			鎮 市	4 の地													1 処
不 明 地														0 処	不 明 率		0 %

注

(1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著、388頁参照。

- (2) (1)の書388頁に掲載。
- (3) (1)の書388頁に掲載。
- (4) (1)の書389頁の地理表を移録。

13 睦州

(1) 酒統計

睦州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

睦州 M13	
舊。在城及桐廬・清溪・遂安・建德・壽昌・分水県七務	①郭下県，酒務数に入れず
歳	51,321貫
熙寧十年祖額	39,173貫
買撲	0（不記）

旧額51,321貫，新額（官売＋買撲）39,173貫（文は計算せず）で，両額の差額は－12,148貫，増加率－24％になる。官売額39,173貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は100％，買撲額はなく買撲率は0％である。以上の睦州諸数値を銭額表にまとめる。

M13 睦州 銭 額 表

旧 額	51,321 貫	
新 額	官売	39,173 貫
	買撲	0 貫
	計	39,173 貫
新旧差額	－12,148 貫	
増 額 率	－24 %	
官 売 率	100 %	
買 撲 率	0 %	

(2) 酒務表

寰宇記95・九域志5により太平興國中～元豊間の諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県5を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県5，県酒務5であるので，県置務率は（5÷5）

は100%になる。州県務（在城＋県務5）は6務である。全酒務6務に占める州県務の比率である州県務率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。なお鎮市務0・鎮市務率0%である。

M13 睦州 県変遷図

年 代	外 県					郭下
太平興國中	清 溪	分 水	遂 安	壽 昌	桐 廬	建 德
旧務年代	1○	2○	3○	4○	5○	○
熙寧10年 1077	○5 ↓	○4 ↓	○3 ↓	○2 ↓	○1 ↓	○ ↓

次に酒統計に○印を付した¹在城・²桐廬・³清溪・⁴遂安・⁵壽昌・⁶分水県（州県務6）の計6処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地6処に占める併設地の比率である併設率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。旧商税務6処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記の1～6の地（州県務6）で計6処である。酒務地6処に対する新税務地の比率である新務地率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。新商税務6処⁽³⁾に対する新税務地6の比率である対新商税務率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁽⁴⁾にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の1～6の地（州県務6）で計6処である。酒務地6処に占める存続地の比率である存続率（ $6 \div 6$ ）は、100%になる。なお旧

M13 睦州 格上 地理表（主戸66,915 客戸9,836 計76,751 貢 白紵、簞）

格 県	距 離	郷	鎮	%	その他	備 考	水 系	計 9
望 建德	郭下	9	0	0	0		新安江，東陽江，七里瀨	3
望 青溪	西 166	14	0	0	0		新安江	1
上 桐廬	東 105	11	0	0	0		浙江，桐廬江	2
中 分水	北 192	5	0	0	0		天目溪	1
中 遂安	西南 229	6	0	0	0		武彊溪	1
中 壽昌	西南 115	4	0	0	0		壽昌溪	1
計 6		49	0	0	0	土産 交梭紗，竹簞，絲布，鳩坑團茶，麥門冬煎		5 種
神泉監	東 5	0	0	0	1	鑄銅錢		0

商税務・新商税務・地理表にみえない不明地はなく、不明率は0%になる。以上の陸州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M13 陸州

酒 務 表

外 県 5	置 務 県 5	置 務 率 100	州 県 務 6	州 県 務 率 100	鎮 市 務 0	鎮 市 務 率 0	酒 務 6	併 設 地 6	併 設 率 100	旧 商 税 務 6	対 旧 商 率 100	新 税 務 地 6	新 務 地 率 100	新 商 税 務 6	対 新 商 率 100	存 続 地 6	存 続 率 100
併 設 地		州 県	¹ 在城・ ² 桐廬・ ³ 清溪・ ⁴ 遂安・ ⁵ 壽昌・ ⁶ 分水														6 処
計 6		鎮 市															0 処
新 税 務 地		州 県	1 ～ 6 の地														6 処
計 6		鎮 市															0 処
存 続 地		州 県	1 ～ 6 の地														6 処
計 6		鎮 市															0 処
不 明 地			0 処											不 明 率		0 %	

注 建徳、郭下、酒務数に入れず

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著、390頁参照。
- (2) (1)の書390頁に掲載。
- (3) (1)の書390頁に掲載。
- (4) (1)の書391頁の地理表を移録。

14 秀州

(1) 酒統計

秀州の旧酒務及び新旧酒銭額は次の如くである。

秀州 M14

舊。在城及青龍・華亭・魏塘・大盈・徐沙・石門・牛進・海
 鹽・趙屯・泖口・嵩子・廣成・州錢・崇徳・漢盤十六務
 ①— ②—

- ①※ (不明瞭記号)
- ②原文、七。計、6

歳	104,952貫
熙寧十年祖額	117,809貫073文
買撲	15,081貫600文

旧額104,952貫，新額（官売＋買撲）132,890貫（文は計算せず）で，両額の差額は27,938貫，増加率27%になる。官売額117,809貫（文切捨）が新額に占める比率である官売率は89%，買撲額15,081貫が占める比率である買撲率は11%になる。以上の諸数値を錢額表にまとめる。

M14 秀州 錢 額 表

旧 額	104,952 貫	
新 額	官売	117,809 貫
	買撲	15,081 貫
	計	132,890 貫
新旧差額	27,938 貫	
増 額 率	27 %	
官 売 率	89 %	
買 撲 率	11 %	

(2) 酒務表

寰宇記95・九域志5により太平興國中～元豊間の秀州諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。酒統計は在城・県3・鎮市12を記すが，それらの酒務からは旧務年代は不明であるので，一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

M14 秀州 県変遷図

年 代	外 県			郭下
太平興國中	崇 德	華 亭	海 鹽	嘉 興
旧務年代	1 ○	2 ○	3 ○	○
熙寧10年 1077	○ 3	○ 2	○ 1	○
	↓	↓	↓	↓

図によれば熙寧10年前の旧外県3，県酒務3であるので，県置務率は $(3 \div 3)$ は100%になる。州県務（在城＋県務3）は4務である。全酒務16務に占める州県務の比率である州県務率 $(4 \div 16)$ は，25%になる。鎮市務は12務で，鎮市務率 $(12 \div 16)$ は75%になる。

次に酒統計に○印を付した¹在城・²華亭・³海鹽・⁴崇德（州県務3）及び⁵青龍（鎮市務1）の計5処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地16処に占める併設地の比率である併設率 $(5 \div 16)$ は，31%になる。旧商税務7処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率 $(5 \div 7)$ は，71%になる。

次に酒務地に新商税務が設置された地である新税務地は、酒統計に□印を付した上記の 1～4 の地（州県務 4）、及び 5 の地・魏塘⁶（鎮市務 2）の計 6 処である。酒務地 16 処に対する新税務地の比率である新務地率（ $6 \div 16$ ）は、38%になる。新商税務 9 処³に対する新税務地の比率である対新商税務率（ $6 \div 9$ ）は、67%になる。

次に酒務地で元豊まで存在して地理表⁴にみえる存続地は、酒統計表の地名に△印を付している。存続地は上記の 1～4 の地（州県務 4）、及び 5 の地で計 5 処である。酒務地 16 処に占める存続地の比率である存続率（ $5 \div 16$ ）は、31%になる。なお旧商税務・新商税務・地理表にみえない不明地は⁷大盈・⁸徐沙・⁹石門・¹⁰牛進・¹¹趙屯・¹²泖口・¹³嵩子・¹⁴廣成・¹⁵州錢・¹⁶漢盤等 10 処で、不明地が酒務地 16 に占める比率である不明率（ $10 \div 16$ ）は、63%になる。以上の秀州の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。

M14 秀州 格上 地理表（主戸139,137 客戸0 貢 綾）

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 4
望 嘉興	郭下	27	0	0			0
緊 華亭	東北 120	13	1	7	青龍鎮 塩監 1 名称不記 塩場 3 浦東・袁部・青墩鹽場	松陵江, 華亭海	2
上 海鹽	東南 80	11	2	18	澉浦・廣陳鎮 塩監 1 名称不記 塩場 3 海鹽・沙要・蘆瀝鹽場	當湖	1
中 崇德	西南 100	12	1	8	0 青墩鎮	運河	1
計 4		63	4	6	8 土産	絲葛, 白石脂, 藕, 綾, 蓆, 草履, 蛇床子（原文, 與蘇州同）7 種	

M14 秀州

酒 務 表

外 県 3	置 務 県 3	置 務 率 100	州 県 務 4	州 県 務 率 25	鎮 市 務 12	鎮 市 務 率 75	酒 務 16	併 設 地 5	併 設 率 31	旧 商 稅 務 7	對 稅 舊 商 率 71	新 稅 務 地 6	新 稅 務 地 率 38	新 商 稅 務 9	對 稅 新 商 率 67	存 続 地 5	存 続 率 31
併 設 地			州 県	¹ 在城・ ² 華亭・ ³ 海鹽・ ⁴ 崇徳												4 処	
計 5			鎮 市	⁵ 青龍												1 処	
新稅務地			州 県	1～4の地												4 処	
計 6			鎮 市	5の地、 ⁶ 魏塘												2 処	
存 続 地			州 県	1～4の地												4 処	
計 5			鎮 市	5の地												1 処	
不 明 地			⁷ 大盈・ ⁸ 徐沙・ ⁹ 石門・ ¹⁰ 牛進・ ¹¹ 趙屯・ ¹² 泖口・ ¹³ 嵩子・ ¹⁴ 廣成・ ¹⁵ 州錢・ ¹⁶ 漢盤									10 処		不 明 率		63 %	

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著，392頁参照。
- (2) (1)の書391頁に掲載。
- (3) (1)の書391頁に掲載。
- (4) (1)の書393頁の地理表を移録。

15 江陰軍

(1) 酒統計

江陰軍の旧酒務及び新旧酒錢額は次の如くである。

江陰軍 M15

舊。在城及利城鎮・巢村三務

歳

36,622貫

今廢

旧額貫36,622であるが、熙寧4年に廃されたので新額は無い。

(2) 酒務表

寰宇記92・九域志5により太平興國中～元豊間の江陰軍諸県の変化を県変遷図⁽¹⁾に示す。

酒統計は在城・鎮市2を記すが、それらの酒務からは旧務年代は不明であるので、一般的な旧務年代である景祐～慶暦前に従っておく。

図によれば熙寧10年前の旧外県0であり、県置務率の計算式は成立しない。州県務は在城のみで、全酒務3務に占める州県務の比率である州県務率（ $1 \div 3$ ）は、33%になる。鎮市務は2務で、鎮市務率（ $2 \div 3$ ）は67%になる。

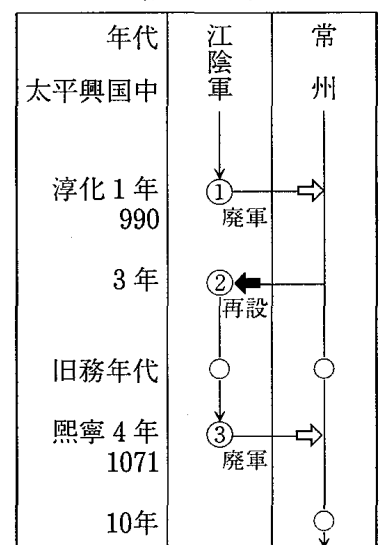
次に酒統計に○印を付した¹在城（州県務1）及び²利城鎮（鎮市務1）の計2処が酒務・旧商税務の併設地である。酒務地3処に占める併設地の比率である併設率（ $2 \div 3$ ）は、67%になる。旧商税務3処⁽²⁾に占める併設地の比率である対旧商税務率（ $2 \div 3$ ）は、67%になる。

次に江陰軍は図に示しているように熙寧5年に廃されている。新税務地・新務地率・対新商税務率・存続地・存続率・不明地・不明率などは併入先の揚州の酒務表に表記されるので、ここではそれらの諸数値は示さない。以上の江陰軍の酒務・諸数値を酒務表に整理して示す。なお参考のために江陰軍旧域の地理表⁽³⁾を示しておく。

M15 江陰軍 錢 額 表

旧 額	36,622 貫	
新 額	官 売	— 貫
	買 撲	— 貫
	計	今廃
新旧差額	— 貫	
増 額 率	— %	
官 売 率	— %	
買 撲 率	— %	

M15 江陰軍 県変遷図



M15 江陰軍旧域 地理表 (主戸7,645 客戸6,906 計14,551)

格 県	距 離	郷 鎮	%	その他	備 考	水 系	計 4
望 江陰	旧郭下	19 3	15	0	利城・茶林・石橋鎮	芙蓉湖, 大江	2
計 1		19 3	15	0	土産 (同與常州)		

戸・土産は寰宇記92, その他は常州地理表による。

M15 江陰軍 酒 務 表

外 置 置 州 州 鎮 鎮 酒 併 併 旧 対 税 新 新 新 対 税 存 存	県 務 務 県 県 市 市 務 設 設 商 税 務 新 新 新 税 税 続 続	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
併 設 地	州 県	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
計 3	鎮 市	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
新 税 務 地	州 県	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
計	鎮 市	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
存 続 地	州 県	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
計	鎮 市	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一
不 明 地		1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一	1 0 0 1 33 2 67 3 2 67 3 67 一 一 一 一 一 一

注

- (1) 県変遷図の作成史料は前掲拙著, 394頁参照。
- (2) (1)の書393頁に掲載。
- (3) (1)の書394頁の地理表を移録。

おわりに

表1の銭額総合表に示しているように、杭州は戸約20万・新商税約17万貫・新酒額約50万貫であり、それらは兩浙路のトップレベルである。杭州が兩浙路で最大の州であるので商税・酒額も最高額であると思われる。また越州・蘇州・湖州・明州・秀州などはいずれも10万戸以上の州であり、商税も5万貫を越え、酒額も

10万貫以上の高額である。兩浙路ではおおまかには戸・商税の大小が酒額の大小に一致している。しかし戸・商税が高額であることが必ずしも酒額が大であるとは限らない。婺州の戸は約4万で、兩浙路では最少額であるが、酒額は約9万貫であり、これは潤州・温州・台州・處州・睦州などよりはるかに高額である。但し婺州の商税額は兩浙路では第3位で高額である。

次に旧額より新額が5州軍で減額になり、10州軍で増額している。新旧額の差額及び新旧の増減率に一定の傾向がみられないので、均一的・斉一的な酒額増減政策が採られたとは考え難い。新旧の相違は主として酒消費量自体の変動により生じたとみなければならない。

次に表1をみると行政都市・地方小都市＝都市エリアの官売酒額は甚だ多額であり、鄉村エリア買撲額が少額である。鄉村買撲比率は約30%以下であり、約10

表1 M兩浙路 錢額総合表

州軍	旧額	新額	差額	増額率	官売	買撲	官売率	買撲率	戸	商税
M1 杭州	360,346	499,347	139,001	39	477,321	22,026	96	4	202,816	173,805
M2 越州	123,297	117,092	-6,205	-5	83,707	33,385	71	29	152,922	66,204
M3 蘇州	283,251	287,384	4,133	1	236,122	24,262	92	8	173,969	77,071
M4 潤州	67,323	87,429	20,106	30	66,670	20,759	76	24	54,798	39,499
M5 湖州	109,657	136,116	26,459	24	98,369	37,747	72	28	154,121	77,683
M6 婺州	120,412	93,427	-26,985	-22	64,054	29,373	69	31	38,097	71,024
M7 明州	83,154	108,595	25,441	31	83,116	25,479	77	23	115,208	26,945
M8 常州	105,865	147,265	41,400	39	120,136	27,129	82	18	136,360	64,948
M9 温州	50,748	81,309	30,561	60	68,526	12,783	84	16	121,916	41,976
M10 台州	81,298	72,147	-9,151	-11	69,044	3,103	96	4	145,713	45,282
M11 處州	11,169	37,195	26,026	233	27,752	9,443	75	25	89,358	27,734
M12 衢州	90,790	66,835	-23,955	-26	49,351	17,484	74	26	86,797	44,758
M13 睦州	51,321	39,173	-12,148	-24	39,173	0	100	0	76,751	35,563
M14 秀州	104,952	132,890	27,938	27	117,809	15,081	89	11	139,131	65,443
M15 江陰軍	36,622	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,680,205	1,906,204	225,999	13	1,601,150	278,054	84	15	1,485,141	857,935

%以下の州軍4である。また官売額・買撲額が同額の州軍及び官売率・買撲率が同率の州軍はないので、兩浙路の官売額・買撲額・官売率・買撲率はそれぞれ都市エリア・鄉村エリアの酒消費量が反映したものである。鄉村エリアより都市エリアの酒消費量大であることは当然予想されてよいが、表1の数値はそのことを裏付けている。なお新商税額約86万貫に対し新酒額は約190万貫と高額である。

次に表2は15州軍の酒務表を総括したものである。注目したいのは旧務年代(旧商税務表)。熙寧10年(新商税務表)・元豐(地理表)で確認できない不明地が少ないことである。不明地は酒務112のうち僅か14処であり約13%に過ぎない。これに対し元豐までの存続地92処、存続率82%であり、甚だ高率である。不明地率の低率と存続地の高率は、酒務が置かれた行政都市・地方小都市・町の多くは社

表2 M兩浙路 酒務総合表

州 軍	州 県 務	鎮 市 務	全 酒 務	併 設 地	併 設 率	対 旧 商	税 務 率	新 税 務 地	新 務 地 率	対 新 商	税 務 率	存 続 地	存 続 率	不 明 地	不 明 率	旧 商 税 務	新 商 税 務
M1	9	1	10	8	80		62	9	90		60	10	100	0	0	13	15
M2	6	3	9	8	89		89	8	89		62	8	89	1	11	9	13
M3	3	4	7	4	57		80	6	86		75	6	86	1	14	5	8
M4	3	2	5	3	60		60	5	100		71	5	100	0	0	5	7
M5	5	1	6	5	83		50	5	83		50	5	83	1	17	10	10
M6	7	2	9	8	89		100	8	89		89	8	89	0	0	8	9
M7	4	1	5	4	80		80	4	80		80	5	100	0	0	5	5
M8	2	7	9	3	33		60	7	78		64	9	100	0	0	5	11
M9	4	3	7	6	86		100	6	86		100	7	100	0	0	6	6
M10	5	3	8	8	100		100	8	100		100	7	88	0	0	8	8
M11	6	2	8	6	75		86	6	86		100	7	88	1	13	7	6
M12	3	1	4	3	75		38	4	100		44	4	100	0	0	8	9
M13	6	0	6	6	100		100	6	100		100	6	100	0	0	6	6
M14	4	12	16	5	31		71	6	38		67	5	31	10	63	7	9
M15	1	2	3	2	67		67	—	—		—	—	—	—	—	3	—
計	68	44	112	79	71		75	88	79		72	92	82	14	13	105	122

会的・経済的安定性が高かったことを証し、同時に熙寧10年の新商税務表に旧酒務地がみえる場合は、その地に熙寧10年においても酒務が置かれていた確率が甚だ高いことを意味する。

次に表2によれば全酒務112処で、その内訳は州県酒務68・鎮市務44である。また旧商税務105処に対して併設地79処で、商税務のみ地は26処で、酒販売所がない地にも商税務が置かれたことがわかる。しかし併設率が路全体では71%と高率で、60%未満の州軍3（M3・M8・M14）と少ない。このことは兩浙路では都市には酒務・商税務が併設されることが甚だ多かったことを証している。また新商税務が置かれた地の新務地率も79%と高率である。

次に表3によれば旧務年代の行政都市67と多く、次いで町29、地方小都市16である。町が行政都市の約4割、地方小都市が約2割である。M1・M5・M7・M11～13などの6州軍では地方小都市がなく、またM4・M10・M13・M15など4州軍には町がない。なお地方小都市・町が共にないのはM13睦州のみである。

次に表2によれば指摘したように酒務地で元豊まで残っていた存続地は92処であるから、少なくとも熙寧10年には92処の酒務地が存在した。表4によれば熙寧10年に新商税務が置かれた酒務地である新税務地の州県即ち新務年代の行政都市67、地方小都市（新税務地の鎮市）21、町（酒務のみの鎮市）6、税務不置県0（酒務のみの県）である。注意しておきたいのは、地理表に示した地名は九域志が採

表3 M兩浙路 旧務年代の行政都市・地方小都市・町

州 軍	M1	M2	M3	M4	M5	M6	M7	M8	M9	M10	M11	M12	M13	M14	M15	計
行政都市	9	6	3	3	5	7	4	2	3	5	6	3	6	4	1	67
地方小都市	0	2	1	2	0	1	0	1	3	3	0	0	0	1	2	16
町	1	1	3	0	1	1	1	6	1	0	2	1	0	11	0	29
酒務（計）	10	9	7	5	6	9	5	9	7	8	8	4	6	16	3	112

行政都市：各州軍の酒務表の州県数（酒務のみの県を含む、M1鹽官）

地方小都市：各州軍の酒務表の併設地欄の鎮市数

町：酒務－（行政都市＋地方小都市）

酒務（計）：不明地を含む

表4 M 兩浙路 新務時代の行政都市・地方小都市・町

州 軍	M1	M2	M3	M4	M5	M6	M7	M8	M9	M10	M11	M12	M13	M14	M15	計
① 行政都市	9	6	3	3	5	7	4	2	4	5	6	3	6	4	—	67
② 地方小都市	0	2	3	2	0	1	0	5	2	3	0	1	0	2	—	21
③ 町	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	—	6
④ 税務不置県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0
⑤ 存続地	10	8	6	5	5	8	5	9	7	7	7	4	6	5	—	92 (94)

注(1)M14魏塘が格下げ、地理志にみえず、このため存続5 (①+②=6)

(2)M10渚路橋鎮は新税務地欄にみえるが、存続地欄にみえない

(3)(1)・(2)により①+②+③+④の合計と⑤の存続地数とが一致しない

(4)不明地を含まず

①存続地＝行政都市＋地方小都市＋町＋税務不置地（但し熙寧10年後に廃された県・鎮及び不明地を含まず）

②行政都市：各州軍酒務表の新税務地欄の州県数

③地方小都市：各州軍酒務表の新税務地欄の鎮市数

④町：各州軍酒務表の新税務地欄にみえず、存続地欄にみえる酒務地

⑤税務不置県：各州軍酒務表の新税務地欄にみえず、存続地欄にみえる酒務設置の県

()：新税務地欄にみえるが、存続地欄にみえない酒務地を加えた数値

録した地であり、九域志は草市を採録していないので、存続地は旧酒務地より少なくなる場合があることである。換言すると存続地92処・存続率82%以上になる可能性がある。

熙寧10年に兩浙路には少なくとも行政都市67、地方小都市21、町6が存在した。